

MURAMATSU通信 SPECIAL

保存版

金製ムラマツ・フルート
9K.GOLD/9K.GOLD-SR
あたらしい。自由自在のフルート。

01 笛吹きとの対話

オーレル・ニコレ

•青木 宏

05 **特集** 金製ムラマツ・フルート
9K.GOLD/9K.GOLD-SR

12 フルートの金属学

「金」に関する五つの考察

•細田秀樹

15 音楽史の扉

J-M.ルクレール

•森岡広志

17 ムラマツ・フルート ラインナップ

c. les Amis, Rio de Janeiro. 6.4.91

Tout ce que vous avez fait pour le développement de la flûte, non seulement la fabrication, mais la diffusion, l'attention, l'information par la littérature et la pédagogie pour flûte, mérite les plus grands compliments. Je suis que nous nous connaissons, de moi j'attais eu l'impression d'être avec des "businessman", mais avec des amis, qui cherchent dans la musique la communication et l'harmonie.

À tous, mes amitiés et mes vœux chanceux pour l'avenir.

Aurele Nicolet



ニコレさんからの手紙。

「フルートの発展のために、あなたがたがしてきたことすべては、最大の称賛に値するものです。私はあなたがたを、ビジネスマンなどと思ったことは一度もなく、音楽におけるコミュニケーションとハーモニーを、探求する友人たちだと思っています。」

オーレル・ニコレ

フランスとドイツの文化を融合させた稀代の音楽家

村松フルート製作所◎青木 宏



オーレル・ニコレ (Aurèle Nicolet)
(1926年1月22日～2016年1月29日)

1926年スイスのヌーテシャルに生まれる。フルートをチューリヒでアンドレ・ジョネに、その後、パリのコンセルヴァトワールでマルセル・モイーズに学ぶ。1947年パリ・コンセルヴァトワールのコンクールで優勝。翌年のジュネーヴ国際音楽コンクールでも1位となる。10代からオーケストラで活動し、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、ヴィンタートゥール交響楽団を経て、1950年フルトヴェングラーに嘱望されベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。以後9年間、首席フルート奏者を務める。退団後はフリー奏者となって、世界各地でリサイタル、オーケストラとの協奏曲、室内楽等の演奏会、そして数多くのレコーディングをおこなう。また、フルートや音楽の教育にも力を入れ、ベルリン音楽大学、フライブルク音楽大学で教鞭をとり、後進の指導にあたる。1968年の初来日以降、日本でもコンサート、コンクール審査員やマスタークラス等を度々おこなう。2016年1月29日逝去。

フランスとドイツを融合する 見事な演奏

オーレル・ニコレさんはスイスのヌーシャテルに生まれました。この街には、ナチスを逃れて外国に移った指揮者、ヘルマン・シエルヘンがいたのです。彼はこの街でアマチュアの音楽家たちを集めて、バッハのカンタータなどを演奏していました。その活動に若いニコレさんも参加していた、シエルヘンからドイツ音楽、とりわけバッハを学ぶことができたのです。たいへん恵まれた環境だったのですね。

ニコレさんが最初にバッハを知ったのは、「ブランデンブルク協奏曲」第3番で、これを聴いて飛び上がりながらおどろいたそうです。22歳のときジュネーヴ国際コンクールで優勝しましたが、実はそれ以前、第二次世界大戦の最中に開催されたジュネーヴ・コンクールでも、16歳で優勝しました。そのときに吹いた、バッハのリュートのための組曲ハ短調の「サラバンド」の録音が残っていますが、これはたいへん素晴らしい演奏です。

その後、チューリヒでアンドレ・ジョネさんに習い、パリのコンセルヴァトワールでモイーズさんに学んで、ヴィンタートゥール市立管弦楽団のメンバーとなりました。当時のニコレさんの演奏は生粋のフレンチ・スタイルで、解釈や音楽はジョネ

1月29日にオーレル・ニコレさんが亡くなりました。ニコレさんは幾たびかの来日や数多くの録音によって日本でも大変ファンが多いフルーティストでした。活躍の時期がちょうどジャン・ピエール・ランパルさんと重なり、その音楽や音色の違いから人気を二分する、偉大なフルート奏者と讃えられた方です。華やかなランパルさん、哲学的で求道者のようなニコレさんというイメージもこのような中から出来上がってきたようです。2月20日には、バーゼルのマルティン教会で追悼コンサートが行われ、静謐な会堂はニコレさん縁の演奏家、E・パユ、F・レングリ、H・ホリガー、K・ブラッハーほかの方々が演奏する音楽で満たされました。今回はムラマツとのつながりも深かったニコレさんを、感謝を込めてご紹介します。

さんの演奏に生き写しです。

1950年、ベルリン・フィルの首席ハンス・リベーター・シュミッツさんがリタイアすることになり、終身指揮者だったフルトヴェングラーは後継者としてジョネさんにオファーしたのですが、ジョネさんは教え子のニコレさんを紹介したのです。

こうして1959年までの9年間、ニコレさんはベルリン・フィルの首席として活躍することになります。フルトヴェングラーの指揮するドイツ生え抜きのオーケストラに投げ込まれたわけですから、それまでのフレンチ・スタイルにドイツ独特の精神性がミックスされて、それがあ

の見事なニコレ・スタイルともいうべき、素晴らしい音楽が生まれる土壌となつたわけです。

フルトヴェングラーと 最高のブラームス

ニコレさんはフルトヴェングラーに心酔され、ベートーヴェンのような理想主義者として、たいへん感化を受けたようです。のちにシュミッツさんは、「ニコレは中部ヨーロッパのフルートの新たな伝統をつくりあげた。私にとってフルーティストは彼ひとりです」と語っていました。こ

れがフランスとドイツの文化のスタイルを、自分の中で高度に融合させた見事な演奏のことを指しているのは、言うまでもありません。とても象徴的な言葉です。あるとき、ニコレさんはこんなことをおっしゃいました。「1年に1回か2回、とてもない演奏ができる。演奏前に考えたことは何もかも全部忘れて、どんな音楽でもできる、といったものすごく高いテンション、そういう瞬間がくることがある。その瞬間のためにこそ、音楽をやっているんだ」。

そこで、フルトヴェングラーのベルリン・フィルで演奏したときはどうでしたかと聞きますと、即、「1952年2月10日のブラームスの交響曲第1番は最高だった」という答えが返ってきました。このライブ録音はCDでも聴けますが、びっくりしますよ。モノラルにもかかわらず、すべての楽器が聞こえる名演です。

ニコレさんとランパルさん

ニコレさんは、1968年の4月に初めて来日され、ランパルさんとデュオの演奏会を開きました。私は中学生のころからニコレさんのファンでしたが、このとき私は初めてニコレさんのステージに接することができたのです。

お二人は演奏のスタイルや音楽の作り方がかなり違いますね。ところがデュオのときには、演奏しているうちに互い

によく似てきて、どちらが吹いているのかわからなくなってくるのです。これはとても興味深い現象です。二人の名演奏家同士が、お互いに刺激されて影響を与え合い、見事な音楽を新たに作りだしている。互いに自分だけを主張しないのです。これが共演の真実の姿なのです(このデュエットは録音もされてCDで聴くことができます)。

このようにニコレさんは、アンサンブルのときにも「私はこうするんだが」といったスタンスをとりません。共演する相手と何ができるだろうか、ということについても考えるのです。私はこれは素晴らしい方法論だと思います。

ところで、ニコレさんとランパルさんは音楽的には違っていますが、とても仲がいいのです。どちらかというと、ランパルさんはアバウトでニコレさんは緻密というふうに見えそうですが、実際はその逆なんです。ランパルさんは、「彼に楽譜を預けておくと、何がどこにあるかさっぱりわからなくなっちゃう。楽譜はいつも私が管理しているんです」とおっしゃっていました(笑)。

ムラマツにやってきたニコレさん

このデュオ・コンサートがあった年、ニコレさんは、日本のような極東の国でフルートをつくっている会社があるという

Programm		Mitwirkende	
Johann Sebastian Bach 1685-1750	„Chaconne“ für Violine solo aus: Partita d-Moll BWV 1004 (1720)	Kolja Blacher	Violine
Heinz Holliger *1939	„Sons d'or“ – pour Aurèle für Bassflöte und Glasharmonika (7.2.2016, Uraufführung)	Jörg-Andreas Bötticher	Cembalo
Wolfgang Amadeus Mozart 1756-1791	„Adagio“ C-Dur für Glasharmonika KV 617a (1791)	Heinz Holliger	Oboe
Ansprache von Vincent Rivier		Emmanuel Pahud	Flöte
Claude Debussy 1862-1918	„Syrinx“ für Flöte solo (1913)	Felix Renggli	Flöte
Luciano Berio 1925-2003	„Sequenza VIII“ für Violine solo (1976/77)	Matthias Würsch	Glasharmonika, Tempelglocken
Elliott Carter 1908-2012	„Inner Song“ für Oboe solo (1992)	Zur Musik	
Heinz Holliger	„Schlafgewölke“ für Altflöte und Tempelglocken. (1984)	Johann Sebastian des dreizehn Jahre lang das Unfassbare: Bach nach Karlstadt, und Barbara gestorben unter „Chaconne“ A ich mir vorstellen, die übergrosse Auf	
Johann Sebastian Bach	Sonate h-Moll BWV 1030 für Flöte und obligates Cembalo	1798 befürchtete besondere Klang zu schr, versenke können uns heute Zeitgenossen bes das „Wolfgang Marianne Kirch Werke des früh	
Andante Largo e dolce Presto. Allegro		Es ist die m Minuten von „ sik: im Drama Sommermacht, Prodigie! Sa ceintur Elle ait la Sur la tet Oh! cor Mélo	

EIN LEBEN FÜR DIE MUSIK IST VOLLENDET

AURÈLE NICOLET

22.1.1926 - 29.1.2016

GEDENK-KONZERT

SAMSTAG 20. FEBRUAR 2016 17.15 UHR

MARTINSKIRCHE BASEL

EINTRITT FREI, KOLLEKTE

2月20日に行われたニコレさんの追悼コンサートのプログラム。コーリャ・ブラッハー、イェルク=アンドレアス・ベッティヒャー、ハインツ・ホリガー、エマニュエル・パユ、フェリックス・レングリ、マティアス・ヴェルシュによって無伴奏作品と二重奏が演奏された。

ト製作所を訪ねてくださったのです。それは私たちにあって、とてもラッキーなことでした。

まだ木造のバラックのような小屋でしたが、そこでフルートの話や音楽の話いろいろしてくださいました。みんなデュエットやトリオの演奏までやって、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

私は1967年の5月に入社したばかりでしたから、ニコレさんの初来日から1年がたったばかり。あこがれの人が目の前に現れて、しかも一緒に笛を吹いてくれる。こんなチャンスはめったにないと思うくらい踊りだしたいほどでした。ニコレさんは私どもの仕事にとても関心をもってくださり、それ以来、来日するたびに声をかけてくださったり、村松フルート製作所にお越しくださったのです。



工場で出来上がった笛を試奏するニコレさん。(1968年)

冷や汗の出たりハーサル

やがてニコレさんは、日本で開くコンサートのリハーサルに、私を呼んでくれるようになりました。そのとき、演奏する曲の譜面を持って来いと言うのです。そこで曲を全部持っていきますと、まず楽屋で全曲をアナリーゼしてくれまして、リハーサルのときに、そのアナリーゼの通りに聞こえたらOKを、違っていたら、どこが違うか教えてほしいと言うのです。

さあ、たいへんです。ただ演奏を聴いているよりも、もっともっと緊張します。まず彼のアナリーゼを全部頭に入れておかないとかならない。だいたいニコレさんはメモをとると怒るんです(笑)。譜面にメモすると、一生そこから抜け出せない、新しいアプローチの可能性を断ってしまうというのです。ですから、私は必死で



工場でアンサンブルを楽しむニコレさん(左から2人目)。(1968年)

覚えて、さらに彼の演奏も必死で聴きました。

しかし、大演奏家に対してそんなに遠慮なく指摘するわけにもいきませんね。すると、「何がいけないか、言わなくちゃダメだ」と叱られてしまいます。海のものとも山のものともわからない一人の若造に、こんなことを要求するんですから、これは音楽とはどういうものなのかを、仕込んでやろうと思ったのでしょう。

たいへんありがたいことでしたが、おかげで、私は口が悪くなって、どこでもあまりいいことを言わなくなり、いまだにそのクセが抜けていません(笑)。

まず真似をしなさい

こうしたリハーサルだけでなしに、ニコレさんは日本にやってくると、必ずデュエットをする時間とってくれました。音楽をともにすることで、互いに音楽について理解し合い、私たちにいろいろなことを伝えようとしていたのでしょうね。ニコレさんとデュエットをするときの基本は、まず彼の真似をすることです。初めはニコレさんが一番、私が二番を吹くのですが、次はこれを必ず入れ替えて吹きます。ですから、一度目にニコレさんのやったことを全部覚えておいて、二度目にそのとおりに吹かなければなりません。とても厳しいレッスンですが、音程のとり方、音の支え方、音楽の進んでい



1983年、旧村松新宿にて。

く方向、ダイナミックレンジ、音色感——もういろいろなことを教わります。

音楽の理解の仕方を共有するには、最上の方法といえるでしょう。違うことをやると、ニコリともしませんが、きちんとできて互いに乗ってくると、これは極上の時間となります。こうしたことを何十年とやってきました。とても鍛えられました。でも実に楽しく興味のつきないことであり、私の財産といえるでしょうね。

来日したときの公開レッスンなどでも、ニコレさんは詳細なアナリーゼを行いますが、実際に演奏するときには、そうしたことは全部忘れてしまえ、と言います。表に出してはいけない。さらいこんで、自分の中に入れてしまえということですね。

よい楽器とはどんなものか

ニコレさんはフランスのアヴィニオンに別荘を持っていました。そこに入ると、手紙が来ても封を切らないのです。外部とジネスマンなどと思ったことは一度もなく、音楽におけるコミュニケーションとハーモニー(調和)を探求する友人たちだと思っています。

私たちにあっては、これ以上の褒め言葉はありません。彼と出会ってほんとうに幸運だったと思っています。

私は、いつもニコレさんのことが頭にあります。つくった楽器を、もしニコレさんが吹いたらどう言われるか。彼から教えられたものを自分の目標・基準にしています。若い人たちに、ニコレさんから学んだもの、受け継いだものを伝えていく、それがニコレさんから私に課された仕事だと考えているのです。



工場の慰安旅行でディズニーランドを楽しむニコレさんと筆者。

は遮断された、まったくのプライベートゾーンですね。そこに呼ばれて、3〜4日滞在させてもらったことがあります。

飽きることなく一緒に笛ばかり吹いているのですが、あるとき、「よい楽器とはどんなものでしょう」とニコレさんに聞いてみただけです。すると、しばらく考えてから、「新しい楽器で演奏したとき、共演者までが変わってしまうようなことが起こるとすれば、それはとてもいい楽器であることの証だろう」と言うのです。あの意味で、哲学的な言葉ですが、ちょっと吹いてみて、いいとか悪いとか、という次元ではないですね。そして、「ほんとうは楽器よりも、音楽に専念することが一番大事なんだ」と、いつもおっしゃっていました。

このように、ニコレさんをはじめ、多くの演奏家の方々とおつきあいのなかから、伝統的なヨーロッパ音楽の世界を学ぶわけです。一見、楽器作りとは関連のないようなことでも、みな密接につながっています。そのなかで、何をどうしたらよい楽器がつくれるか——それを考えるのが私たちの仕事となるわけです。

心に残るニコレさんの演奏

私が最初にニコレさんの演奏に接したのは中学生のとき。ドルツ弦楽四重奏団と共演したモーツァルトのフルート四重奏曲イ長調のレコードでした。

当時の楽器ですから、イントネーションはよくありませんが、ケタちがいには手で、音楽の持っている素敵な味わいは別格のものでした。たちまち、私はニコレさんのファンになってしまったのです。ニコレさんの録音は、すべて宝物ばかりですが、このモーツァルトは記念すべきレコードで、私の体の中にすべて入ってしまったと思います。

また、生の演奏でふるえあがったほど感動したのは、福島和夫さんの「冥」です。東洋というまったく別の文化を、西洋の楽器であるように素晴らしい音楽にできる、そのことにびっくりしたのです。衝撃的でした。ニコレさんは、異文化や、これまでなじんでいない新しいものに大きな興味を抱く、幅の広い心の持ち主だったのです。

優れた知性と感性

録音されたニコレさんのレッスンで、バッハのイ短調の無伴奏パルティータとエマヌエル・バッハの無伴奏ソナタを比較したものがあります。その中で、バッハの音楽は「静」であり、エマヌエルは「動」であると言っていて、ハイドンやモーツァルトに大きな影響を与えた事例など具体的に挙げて説明をしています。このように、さまざまな作品が持っている音楽的な要素や性格を比較したり結びつけることによって、作曲家のキャラクターを見事に

つかみ出してくるのです。

ニコレさんは優れて明晰な頭脳をお持ちで、感性も非常に豊かです。そして、直観力と構成力はいへんなものでした。また、教育にも情熱を注いで、多くの優秀な教え子たちを育てました。現在ヨーロッパで活躍している主だったフルーティストの音楽的なルーツは、ニコレさんであるといっても間違いではないでしょう。

ニコレさんから学んだものを伝えていきたい

私がいちばん深いところで影響を受けた音楽家が、ニコレさんなのです。彼はとても偉大で、私にはその足元にも及ばない方です。でも、そんな私と同僚たちの面倒をよく見てくださったと、これは感謝してもしきれません。彼がいなかったら、今のムラマツのフルートはなかったと思います。

ニコレさんが70歳のとき、ドイツの雑誌に長いインタビュー記事が載りました。私はすぐにニコレさんに連絡をとって季刊『ムラマツ』に連載させてほしいとお願いしたのです。彼は二つ返事でOKし、資料や写真などを全部送ってくれました。そして、次のようなメッセージも贈ってくださいました。

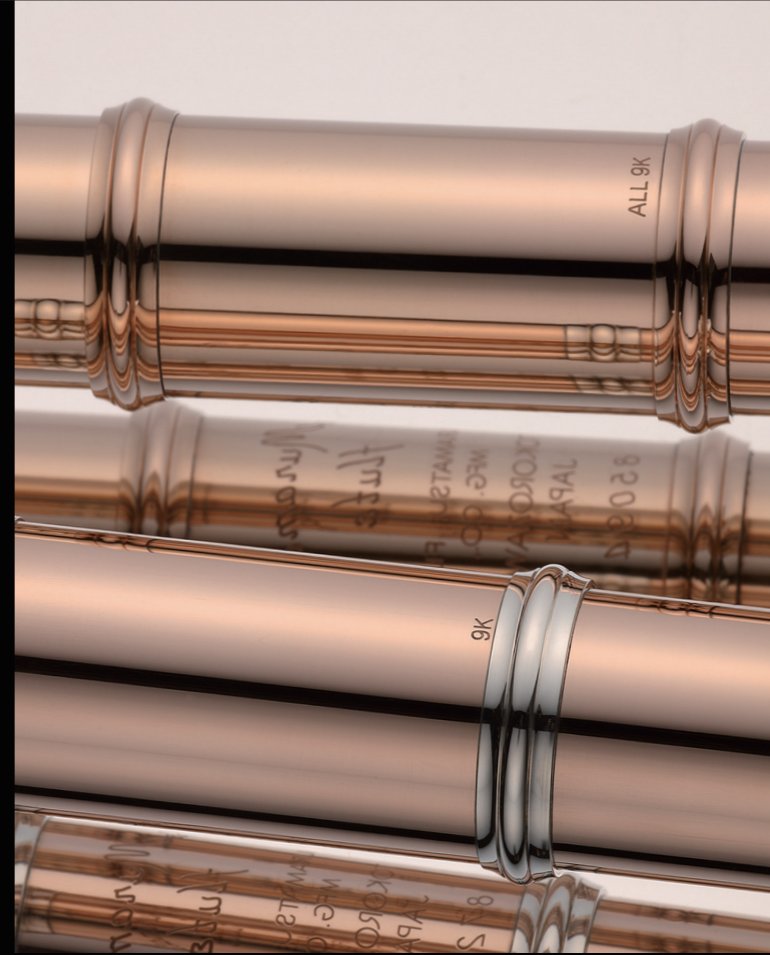
「フルートの発展のために、あなたがたがしてきたことすべては、最大の称賛に値するものです。私はあなたがたを、ピ

「9Kは1985年に初めてつくられました。最初は本体が9Kで、メカニズムが銀製のモデルでしたが、2年後には総9Kがラインナップに加まりました。管体とメカニズムが同一素材であれば、その素材の個性がよりはっきりと表れます。また、9Kの管厚には、ライトとヘビーの2種類があります。最初にライトが実用化され、4年後の1989年にヘビーが加わりました。ヘビーは、全体としては軽い吹き心地の中に、音の厚みや重さが新たな特長となって加味されたタイプです。ライトですと14Kとの音色の違いがかなり大きいのですが、ヘビーは14Kに近い一面も持っています。14K、18K、24Kは、全て9Kのライトと同じ管厚なのですが、ゴールド・モデルの中で唯一、9Kだけはライトとヘビーの2種類の管厚を留意しています。管厚の違い、メカニズムの材質の違い、そして、それぞれにトーンホールの違いが新たに加わって、全部で8種類のバリエーションから選んでいただけるようになりました。この選択肢の多さは、楽器が軽量であることがひとつの理由になっています。軽量であるがゆえに、様々な違いが音色に反映されやすく、奏者の細かなニーズにも応えやすいのです。」

9Kモデルは1985年に発表された。通常の管厚であるライトと厚みのあるヘビー、メカニズムまで9Kで製作された総9K金製などのバリエーションを用意して多くの愛用者を獲得してきた。そして今年、他のゴールド・モデル同様にSRタイプが加わった。

9Kモデルの発売から30年

銀製メカニズムとのコンビネーション(写真はヘビー管)



ゴールド・モデル

9K.GOLD/9K.GOLD-SR

2016年1月より、9KモデルのSR(ソルダード)タイプが発売になった。これにより、ムラマツ・フルートのゴールド・モデルのラインナップは全てにおいて、トゥローン・トーンホールとソルダード・トーンホールを揃えたことになる。そこで今回は2つの9Kモデルについて、埼玉県所沢市の村松フルート製作所に詳細を聞いた。

幅広い層に愛好される9Kモデル

現在、14Kモデルと並ぶ高い人気の9Kモデルは、どのような特長をもったモデルなのだろうか。

「ムラマツでは9K、14K、18K、24Kの4種類のゴールド・モデルを製作しています。ゴールド・モデルをつくりはじめた当初は14Kが主流でしたが、現在ではこれと並んで9Kの人気の高くなっています。その理由は、9Kの特長にあるのではないのでしょうか。9Kの金の含有率は9/24ですから37.5%、比重は11.2です。一方、銀の比重は9.57ですから、9Kは銀よりも重い金属ということになります。但し、実際には銀製のモデルより薄い管厚でつくっていますので、フルート自体の総重量としては総銀製よりも軽くなります。9Kはフルートを構えたときの持ちやすさだけでなく、吹いたときの感覚としても反応が良く軽快ですから、華やかで明るい音色が特長といえます。広範なお客様の様々なニーズに応えることができる万能なモデルとして支持されています。」

編集部注：因みにDSモデル(総銀製：トゥローン・トーンホール/カバードキー/C足部管仕様)は約460g、9K(管体9K金製、メカニズム銀製：トゥローン・トーンホール/同仕様)は約420gです。EXモデル(頭部管銀製、その他洋銀製銀メッキ：同仕様)の約415gと比較して、ほとんど差がありません。

「9Kは当初からバリエーションの豊富なモデルでしたが、全てドゥローン（引き上げ）・タイプのトーンホールでした。今回発売になったSRタイプ（ソルダード・ハンド付け）は9Kでは初めての採用です。もともと、SRという総銀製SRモデルの代名詞になってはいますが、2008年からゴールド・モデルにもソルダードのトーンホールを採用し、改めて楽器全体とラインナップを見直すことにチャレンジしてきました。ソルダードは、トーンホールを管体から引き上げてつくる一体型のドゥローンとは違い、本体より厚い筒を溶接してつくり出すので、製造工程は複雑になります。また、各部のバランスも大切に、管内の接合部の仕上げによって息の流れを整えるなど、精密な技術が必要とします。総銀製SR、14K、18K、そして24Kで培ってきたソルダードのノウハウを9Kにも導入することで、9Kの新しい音色と可能性を、ご提案できるようになりました。」

これまでのノウハウを投入したSRタイプの登場

ムラマツではトーンホールの引き上げ技術が他に抜きん出ていたが、SRタイプは総合的な技術の集積によって、全モデルに最高のコンディションで製作可能となった。



写真上／金製リップ彫刻は、1本ごとに個別の文様で製作
写真下／銀製メカニズムとのコンビネーション（写真はH-foot）

コンクールやコンサートで活躍

9Kモデルは愛好家だけでなく、プロの演奏家たちにも使われ、人気のモデルとして世界的に愛用されている。

「本当に残念なことでしたが、1月に90歳で亡くなられたオーレル・ニコレさんはドイツで9Kを手して、これは、オートマチック・フルート（自由自在のフルート）だと、とても気に入っておられました。自分の思いどおりにコントロールできる、と仰っていたのでした。ニコレさんはその後も、コンサートや録音で9Kを愛用されました。フィンランドのフルーティストであるペトリ・アランコさんは、1989年の第2回神戸国際フルート・コンクールで優勝された時に9Kを吹かれました。アランコさんは2014年までフィンランド放送交響楽団の首席フルート奏者を務めた方で、退団された今でも、世界中で大勢のファンがいっぱいます。そのアランコさんが9Kで演奏されたJ・イベルやC・ニールセンのフルート協奏曲の素晴らしい録音が残っています。残念ながらそのCDは、現在絶版になっていますが……。また、たくさんの楽器をコレクションされているジェームズ・ゴールウェイさんも総9Kをお持ちになっていて、コンサート・ホールの環境やご自分のコンディションによって使っておられました。」





奏者が自由に選べる
ラインナップの充実と
SRタイプの可能性

9Kモデルのバリエーションは、奏者
に選択の幅をもたらすことになる。9
K・SRモデルを加えたラインナップによ
る新しい音の世界を切り開いてほしい。

「先ほどもお話ししたように、ドウ
ローンとソルダードではトーンホール
のつくり方が異なるため、響きも違っ
てきます。ドウローンは音色の統一感
に優れ、滑らかで透明。ソルダードは
音色の深みと豊かさが、それぞれの持
つ特長と言えます。もともとバリエー
ションの多い9Kですが、新たにSR
タイプが加わることで、さらに選択の
幅が広がりました。例えば、今までゴ
ールド・モデルを全く吹いたことがな
い方も、9Kならば、きっと違和感なく、
楽器をコントロールできるのではない
でしょうか。この機会に是非、9Kに
トライしていただき、9Kの新しい音
色と響きを感じてもらいたいと願っ
ています。」

「金」に関する 五つの考察

細田 秀樹



金と歴史

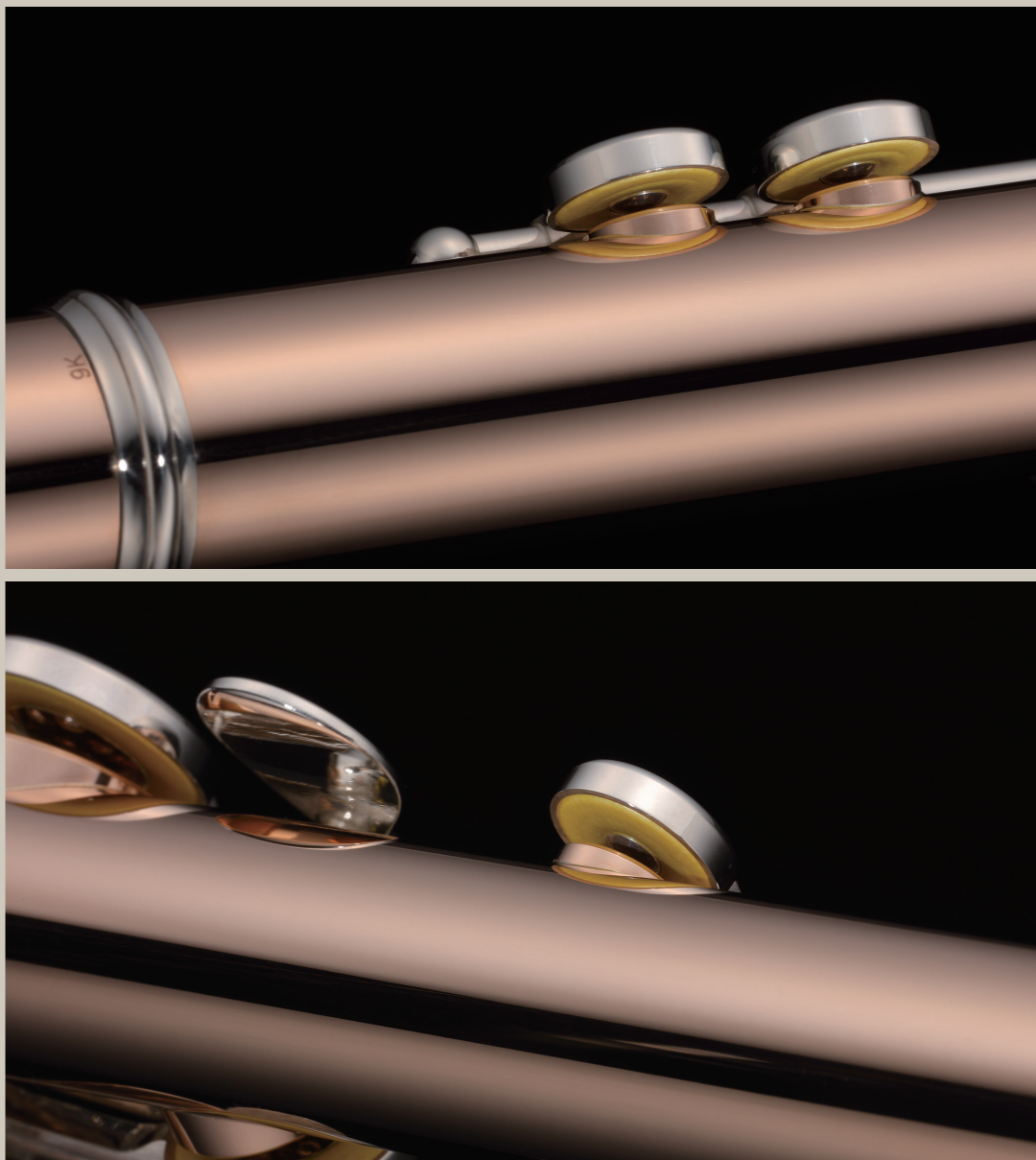
金は特によく知られている金属のひとつです。もっとも馴染みがあり、古くから貨幣としても使われてきた、資産としての価値も高い金属です。お金として以外にも、指輪、ネックレス、眼鏡などの宝飾品、そして金箔や金メッキもよく使われます。今年はおリンピック・イヤーなので、8月に開催されるリオデジャネイロ・オリンピックで日本人が何個の金メダルを取るかも話題になるでしょう。腐食せず、錆びず、電気をよく通すので、オーディオ・ケーブルの接続部分、コンピュータのCPUの配線にも使われます。光をよく反射するので、人工衛星の外側にも金が張られます。また、化学触媒やリニューマチの薬としても使われます。虫歯の治療で金歯を入れている方もいらっしゃるでしょう。

金は歴史的には紀元前から使われており、銅と並んで最も古くから使われている金属のひとつです。エジプトのツタンカーメンのマスクや、日本でも建武中元二年（西暦57年）に漢の光武帝が倭国王に送った「漢委奴国王」の金印などがよく知られています。このように金が太古から使われている理由は、鉄などと異なり、精錬が不要で、砂金塊となつていくことが多く、光り輝いているので見つけ易いためです。これに対し、鉄、アルミニウム、チタン、マグネシウムなどは鉱石から精錬して作る必要があるため、歴史的にはこの順に使われるようになりました。今では大変身近にあるアルミニウムでも、工業的にはここ100年位しか使われていない大変若い金属であることを考えると、金は最も人類に身近な金属といっても過言ではないと思います。

金と価格

金といえば「相場」を連想する方もおられるかと思いますが、金の価格はここ10年問くらいで大きく上がり、今は地金で1gあたり約4500円から5000円です。2004年には1gあたり1500円位

だったことを考えると、約3倍に値上がりしたことになります。貴金属会社の方に「金の価格が上がると資産価値が上がって儲かるのでしょうか？」と聞いてみると、予想に反して「儲かりません。むしろ、減収になります。」との答えが返ってきました。株の場合だと、株価が上がるとさなる値上がり期待して買うので、取引が増え、手数料を取る証券会社は儲かります。貴金属会社が金の価格が上がっても儲からない理由は、金の場合、価格が上がるとコストが上がると、製品に使う金の使用量を減らすと、製品の代金が減るので済ませるための代替材料や代替技術の研究が進められ、金の利用が減って取引量が減り、手数料収入が減るのだそうです。そして一度、金を使わないで済むようになると、そのシェアは戻らないとのこと。筆者は大学の研究者ですが、このことは研究にも影響があります。金の値段が上がると、代替材料技術の研究は進みますが、金自体に関する研究は少なくなります。代替技術の進歩はもろん良いことですが、金には金固有のすばらしい特性があり、金の利用が減っていくことは、金の研究者と



小サイズのオリジナル・パッド
パッド中央のワッシャーが特長
写真上/D#トリル、Dトリル
写真下/C#

パッドに搭載された技術

最後に読者からの関心も大きいオリジナル・パッドについて話を聞いた。

「これは9Kに限らず全モデルに共通したのですが、トリルキーとC#キー*に使われている小さなサイズのパッドには、銀のムク材でできたワッシャーがパッドの中心に取り付けられています。これはパッドを包むスキンのテンションを一定に保つ役目をします。さらに、ワッシャーの頭が半球になっていて管内の空気の流れを整え、響きを次のトーンホールに伝えるリフレクターとしての働きもします。小さなサイズの3つのパッドで塞ぐトーンホールは、歌口からの距離も近いので、こうした形状が音に与える影響も大きくなります。銀製ワッシャーは、1999年にパッドを刷新した後、バージョンアップの過程で採用されました。適切なメンテナンスを怠らなければ、長期間ベストの状態を保つことができる優秀なパッドです。」

*ムラマツではT#・P#の呼び方に倣い、キーが開いたときに出る音で呼んでいます。

しては寂しいものがあります。金は、これまでの長い歴史により、最もリサイクルが進んでいる材料でもあるので、ちゃんとリサイクルしながらどんどん使っていて欲しいと思います。

金と人の相性

金は、人間との相性の良い金属です。ここでの相性とは、人間の体に悪さをしていないことで、専門用語では生体適合性といえます。多くの金属は、ある確率で人間の体にアレルギーを引き起こします。ニッケルなどは白人女性では8名に1人位の割合で金属アレルギーがあるそうです。アレルギーの皆無な物質は無いと言つてよく、人によってはそばや小麦のアレルギーがあり、お米でもアレルギーができる人もいます。金にも、極めて僅かながらアレルギーの発症例はあるそうです。しかし、正月には金箔の入ったお酒を飲む方もいらっしゃるよう、消化器からの金の吸収はほとんどなく、基本的に無害な物質です。これは、金が極めて腐食されにくく、溶け出し難いためです。したがって、体に触れるものとしては最も適している金属のひとつです。同じように腐食しにくい金属としてはプラチナ（白金）もあります。その他、チタン、ステンレス（鉄とクロムの合金）、アルミニウムなども基本的に人体に無害な金属です。これらの金属は、表面がすぐに錆び

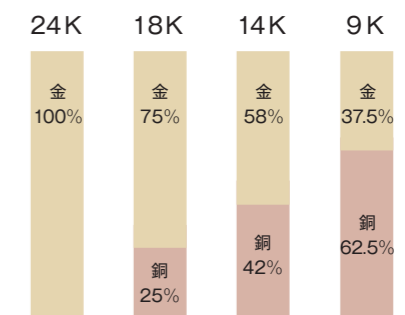
る（＝酸化）のですが、その錆がコーティングとして中を守る役目をするので、溶けずに無害になります。これらの金属が入った合金の多くは、これらの金属が表面に濃縮されればそれ以上溶けなくなるので、アレルギーがでることはあまりありません。典型的な合金が18金（18K）です。これは金と銅の合金です。

金と銅

金は暖かみのある色であり、無害なので、体に触れるものによく使われます。特に金は柔らかいことも特徴です。周期律表で隣にあるプラチナは、ステンレスなど通常の金属と同じ銀色ですが硬さを比べるとずいぶん違います。柔らかいということは、人体に馴染みが良いということにも繋がりますが、「ものを作る」場合には、ある程度の力に耐えることが必要です。また、金では色も大事です。そこで昔から、金には銅が混ぜられます。金属は純度が高いほど柔らかく、逆に色々と混ぜると強くなる性質があります。純金はかなり柔らかいので、丁寧に扱わないと曲がってしまいます。そこで、金の色をあまり損なわず、かつ強くするために銅を混ぜるわけです。その混ぜる量を示す単位がK（カラット）です。ご存じの方も多いと思いますが、100%金のみの純金を24K、金が含まれていないときを0Kとして、重量の割合で示します。18Kは18/24が

24Kから9Kまでの金の重量の比率

*銅の部分は使われる用途によって、銀などの別の金属も含まれます。



金であることを意味し、重量で75%が金です。通常は残りの25%が銅となります。18Kは日本では宝飾品によく使われますが、欧米ではより銅が多い14K（＝58%が金）もよく使われます。色合いは、金に銅を混ぜていくと、黄金→茶赤→赤とだんだん変わっていきます。なお、金に銀を混ぜていくと、黄金→黄色→緑→黄緑→白と変わりますので、密度と合わせるとなんとなく成分が分かります。もちろん、金が多い方が腐食に強いので、そのバランスを考えて成分を調整したり選んだりすることになります。

金と音

村松フルート製作所では9K、14K、18K、24Kの金のフルートを作っていて、さらにプラチナのフルートもあるとのこと。妻はピアノを弾きますが、筆者

自身は音楽を嗜まないのに、「すごいフルートがあるんだな」と思っていました。また、筆者は貴金属の研究者ですが、金やプラチナがフルートの材料に使われるということは考えたことがありませんでした。そう聞いたら、金属屋としてはフルートは素材によってどれくらい音が違うのだろうか？という疑問がわいてきました。さすがに周りに金やプラチナのフルートを持っている人はいないだろうなと思っていたら、あるとき、研究室で学生達とランチを取りながら、たまたまこの話題を出したところ……

（私）「世の中に、金とかプラチナ製のフルートがあるんだって。すごいね。」

（Kさん）「あ、それ、うちに有りますよ。父が持っています。」

（私）「え、本当に持っている人がいるんだ！失礼な言い方ですみません。」

（Kさん）「父の趣味がフルートなので、家族に黙って買うんですよ。」

Kさんとは、筆者の研究室の女子大学院学生です。昔は金属系学科にはほとんど女子学生がいまいませんでしたが、最近は一割強に増えました。しかし、身近の人の家庭で本当にそのようなフルートを持っている方がいるとは思いませんでした。（私）「素材によって、音って違うのかな？」

（Kさん）「私はよくわかりませんが、父によれば、音色が違うので、曲のイメ

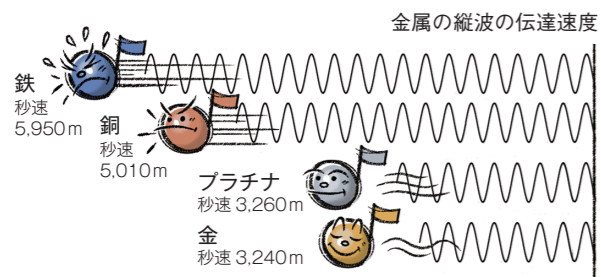
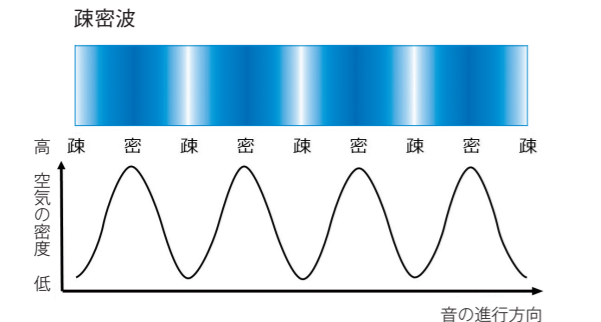
ージに合わせてどのフルートで吹くかを

変えるそうです。なるほど、やはり素材によって、音色は変わるのですね。音の高さは変わらないでしょうから、変わる「音色」とは、たぶん響き方や持続時間、減衰の仕方などで、それは確かに変わるのでしよう。

筆者は音楽が専門ではないので、物理的に金の効果を考えてみました。金が入ると音が柔らかくなるようなことを聞きました。その意味を考えてみます。音は波です。物理的には縦波の速度で考えればよいと思います。縦波は押されて密度の高くなったところと低くなったところが伝わる疎密波です。フルートの中の空気の疎密波それ自体はフルートの材質に

よっては変わりません。フルートの材質によって音色が変わるのは、フルート本体に伝わる音の速度や減衰によるのでしよう。理科年表によれば、金の縦波の伝達速度は3240m/s（秒速）だそうです。なお、プラチナもほぼ同じ3260m/sです。鉄の縦波が5950m/sであるのに対し、かなり遅いですね。銅の縦波は5010m/sです。鉄よりは銅の方が柔らかい感じがしますが、実際、鉄より伝達速度が遅いのです。金属の性質は、おおよそ組成に比例して変わっていくので、銅に金を入れていくと音速が遅くなります。したがって、僅かながら歌口と主管、足部管における振動は時間的に差が生じ、この差は材質に依存するので、音の広がりや共振に差が出るのでしよう。また、内部摩擦と言われるダンピング性能も材質で変わります。ダンピングとは防振性のことで、振動の伝わり難さ、すなわち減衰性のことです。鉛が鈍い音がする理由は、直ぐに減衰するからで、逆に硬い金属で硬い音がする理由はなかなか減衰しないためです。金合金の硬さは、一般的には14Kが一番硬く、次に18K、9K、

24Kとなりますので、それによっても減衰性が変わります。なお、金属では純金属が最も柔らかく、何か他の元素を混ぜると（これを合金と呼びます）硬くなります。金と銅では銅の方が硬いのですが、量のバランスによって硬さが変わり、14K程度の割合で最も硬くなる訳です。プラチナは、金とほぼ同じ伝達速度を持ちますが、金よりはるかに硬い金属ですので、音の減衰はかなり異なります。この減衰性は、同じ金属材料でも、その中の構造（専門用語で組織といいます。細胞のようなイメージです）によっても変わり、それは加工法や熱処理によっても変わりますので、これらによっても音色が変わるのだと思います。以上はあくまでも筆者の私見ですが、こと「音色」に関しては疑問が尽きることがありません。



は、一般的には14Kが一番硬く、次に18K、9K、

細田 秀樹 (ほそだ ひでき)

東京工業大学金属工学科卒、同大学院材料科学専攻博士課程修了、博士（工学）。米国ワシントン大学、超高温材料研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、東北大学、筑波大学で勤務し、現在、東京工業大学科学技術創成研究院副院長およびフロンティア材料研究所・未来科学産業技術研究所教授。日本金属学会副会長。専門は新しい構造・機能性金属材料の開発と設計、特に医療・生体用形状記憶合金の開発。趣味は将棋、美味しいもの、温泉（お風呂）など。フェイスブックにて趣味から研究の発信もしている。

族番号 周期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	1 H 水素																	2 He ヘリウム
2	3 Li リチウム	4 Be ベリリウム											5 B ホウ素	6 C 炭素	7 N 窒素	8 O 酸素	9 F フッ素	10 Ne ネオン
3	11 Na ナトリウム	12 Mg マグネシウム											13 Al アルミニウム	14 Si ケイ素	15 P リン	16 S 硫黄	17 Cl 塩素	18 Ar アルゴン
4	19 K カリウム	20 Ca カルシウム	21 Sc スカンジウム	22 Ti チタン	23 V バナジウム	24 Cr クロム	25 Mn マンガン	26 Fe 鉄	27 Co コバルト	28 Ni ニッケル	29 Cu 銅	30 Zn 亜鉛	31 Ga ガリウム	32 Ge ゲルマニウム	33 As ヒ素	34 Se セレン	35 Br 臭素	36 Kr クリプトン
5	37 Rb ルビジウム	38 Sr ストロンチウム	39 Y イットリウム	40 Zr ジルコニウム	41 Nb ニオブ	42 Mo モリブデン	43 Tc テクネチウム	44 Ru ルチニウム	45 Rh ロジウム	46 Pd パラジウム	47 Ag 銀	48 Cd カドミウム	49 In インジウム	50 Sn スズ	51 Sb アンチモン	52 Te テルル	53 I ヨウ素	54 Xe キセノン
6	55 Cs セシウム	56 Ba バリウム	57-71 L ランタノイド	72 Hf ハフニウム	73 Ta タンタル	74 W タングステン	75 Re レニウム	76 Os オスマニウム	77 Ir イリジウム	78 Pt プラチナ	79 Au 金	80 Hg 水銀	81 Tl タリウム	82 Pb 鉛	83 Bi ビスマス	84 Po ポロニウム	85 At アスタチン	86 Rn ラドン
7	87 Fr フランシウム	88 Ra ラジウム	89-103 A アクチノイド															

※ランタノイド（原子番号57~71）、アクチノイド（原子番号89~103）の内容は省略。
※原子番号104~118は省略。

音楽史の扉

4

ジャン＝マリ＝ルクレール

その2

今回は、「コレッリと並び「天使」と讃えられたルクレールのその後を、唯一のフルート協奏曲とともにご紹介いたします。



Jean-Marie Leclair (1697-1764)

パリ・エコール・ノルマル音楽院を、演奏家資格を得て卒業。メゾン・ラフィット音楽院教授を務めた後、帰国。ムラマツ・フルート・レッスンセンター講師。

森岡広志

1733

年からの数年間、ジャン＝マリ＝ルー・ルクレールは彼の音楽家人生の絶頂期を迎えた。ルイ15世によってヴェルサイユ王室管弦楽団の首席奏者（コンサートマスター）に任命され、ヴァイオリニストとして最高の地位を得ます。その演奏は、美しく甘い音色と華麗なテクニク、そして聴衆の心をつかむ表現力によって天使のような演奏と言われ、ドイツの名フルーティスト、クヴァンツからは「フランスで最優秀のヴァイオリニスト」と絶賛されました。さらに作曲家としても、彼のヴァイオリン・ソナタ集は大成功を収め、当時の流行であったイタリア様式にフランスの趣味を見事に融合させた知的で驚くほど優雅な作風で人気を集めていました。「フランスのコレッリ」と呼ばれ、ドイツの音楽理論家マールブルクからは「ルクレールはテレマンやヘンデルとほとんど同一線上にある」と高い評価を得ています。



ジャン＝ピエール・ギニオン (1702-1774)

その評判も高かったルクレールでしたが、1737年頃からその人生に暗雲が垂れ込めます。彼は王室管弦楽団の首席奏者の地位をJ.P.ギニオンというヴァイオリニストと分け合っていたのですが、このギニオンと衝突したルクレールは、その地位を投げ出しオランダに移住してしまうのです。ギニオンが策謀によりルクレールを第2ヴァイオリニスト者に降格させようとしたという説もあります。ギニオンはルクレールと同じソミスというイタリア人にヴァイオリンを学び、やはりヴァイオリンの名手として知られていました。二人は全く正反対の人物であり、その演奏も明らかに異なっていました。



ジョヴァンニ・バッティスタ・ソミス (1686-1763)

ルクレール、ギニオンと共に王室管弦楽団で演奏していた有名なヴィオラ・ダ・ガンバ奏者のA・フォルクレイの曲集（後に息子がチェンバロに編曲）の中に「ルクレール」、「ギニオン」と題された曲があります。この2曲を聴いてみると、もちろんそれはフォルクレイを通して見た二人の人物像ですが、大変に興味深いことがわかります。曲の冒頭の指示を見るとルクレールの方は「非常に生き生きと、歯切れ良く」、ギニオンは「生き生きと、歯切れ良く」とあります。両方とも華やかなパッセージが目立つ曲ですので、彼らがヴァイオリンの名手として際立った存在であったことが容易に想像できます。決定

的な違いは調性です。「ルクレール」はト長調、「ギニオン」はハ短調です。調性にはそれぞれ性格があります。ト長調は、シャルパンティエによると「甘い喜ばしさ」、マッテゾンは「人を引きつける雄弁に語る性格を強く持ち、輝かしさも少なからずあり、真面目な表現にも活気のある表現にもよく適している」とし、それに対してハ短調は、シャルパンティエは「陰鬱さと、わびしさを表す」、マッテゾンは「並外れて愛らしく、同時にまた哀しい」としています*。これらの調性をルクレールとギニオンの人物に当てはめて考えるのは興味深いことです。ルクレールの人々を魅了する明るさと華やかさ、ギニオンの影のある重々しい威厳に満ちた人物像が見えてくるようです。

この事件によってフランスを離れたルクレールですが、オランダでも不幸は続きます。1738年から3年間は、オランダ王室のアン王女にチェンバロを教える職を得て、ヴァイオリン・ソナタ集第4巻を王女に献呈、勲章を授かる

など順調でしたが、その後指揮者を務めた弦楽オーケストラのオーナーだった実業家が1743年に破産し、失職してしまうのです。そしてルクレールは妻子と共にオランダからパリに舞い戻ってきます。しかし、パリでの暮らしも安定しませんでした。時々アマチュアにヴァイオリンを教えたり、後援者であるグラモン公爵のオーケストラの指揮をしたりしていましたが、だんだんと年を重ねるにつれて精神的に落ち込んでいきます。「ルクレールの性質や振る舞いは、彼を知るすべての人の尊敬を集めるようなものであった」と言う人がいる一方、「寡黙で人間嫌いであり、その性質は年を経るごとに悪化していった」とも言われています（恋する大作曲家たち／フリッツ・スピゲル著／山田久美子訳）。

さらに追い打ちをかけるように妻ルイズ・ラッセルと離婚することになってしまいます。ルイズは献身的に夫に尽くし、自ら楽譜彫版の技術を習得し、夫の作品を出版社の手を介さず出版していました。ルクレールの作品の表紙には「楽譜の彫版は彼の妻による」と書かれています。彼女の仕事は評判を呼び、大作曲家J.P.h.ラモアの楽譜も彼女が作っています。

この後さらにルクレールには悲惨な運命が待ち受けていました。離婚

後、彼はパリ郊外の風紀の悪い地域に引越します。グラモン公爵はもともと良い場所に住むように言いますが、彼は聞き入れませんでした。そして、ついに1764年10月23日早朝、ルクレールは自宅の前で左肩、腹部、胸部の三ヶ所を後ろから鋭い刃物で刺されて惨殺されているのが発見されるのです。この事件は当時非常に話題になりました。警察も大々的に捜査を行うのですが、犯人は一応特定されたものの裁判は行われず、うやむやになって迷宮入りしてしまうのです。いったい何があったのでしょうか。あの栄華を極め、天才的な才能に恵まれていたルクレールの最期は誰も想像出来ない悲惨なものでした。

ルクレールは私たちにフルート協奏曲を1曲残しています。それはルクレールがギニオンと問題を起しフランスを離れる直前と思われる1737年出版のヴァイオリン協奏曲集作品7の第3番ハ長調です。この曲はフルートかオーボエで演奏可能であるとルクレール自ら記しています。友人だったフルートの名手ブラヴェとオーボエ奏者リュカの演奏を思い描いていたと思われます。趣味の良い繊細なフランス風装飾が施されたメロディーをフルートが優しく紡ぐイタリア様式の第1楽章、

ルクレール／フルート協奏曲 第1楽章 フルード・パートの冒頭

ルクレール／フルート協奏曲 第2楽章の冒頭

に生き絶えるかのようにカデンツァを吹き終えると暗く不安な弦のパッセージが再び現れ、第2楽章を閉じるのです。ギニオンとの争いに疲れて、フランスを去ることを決断したルクレールの悔恨と悲哀に満ちた心の叫びが聞こえてくるようです。

このフランス・バロック期を代表するフルート協奏曲を是非ルクレールの一生と重ね合わせながら聴き、そして演奏してみてください。

*磯山雅二編／山下道子・訳／マッテゾン／新設のフルート協奏曲の抄訳 ほか

あなたの町のムラマツと出会える店

北海道 (株)ヤマハミュージックリテイリング 札幌店 札幌市中央区北4条西6丁目3-3 六花亭札幌本店4F (株)ヤマハミュージックリテイリング 五稜郭ショップ …… 函館市本町23-2 (株)ヤマハミュージックリテイリング 旭川店 …… 旭川市4条通8丁目日本生命4条通ビル タケダ楽器(株) …… 北見市大通西3-7-1 島村楽器(株) 札幌クラシック店 …………… 札幌市中央区北3条西4-1 日本生命札幌ビル4F	011-252-2024 0138-52-2955 0166-27-0620 0157-23-3191 011-223-2263	愛知県 村松楽器販売(株)名古屋店 …… 名古屋市千種区今池5-1-5 (株)ヤマハミュージックリテイリング 名古屋店 …… 名古屋市中区錦1-18-28 バルドン楽器(株) …… 名古屋市中区金山1-17-1 アスナル金山2F ヨモギヤ楽器(株) …… 名古屋市熱田区神宮2-1-5 ミュージックメイト マツイシ …… 半田市泉町36 (株)植村楽器 …… 名古屋市千種区内山1-1-10 シンフォニア楽器 長久手店 …… 長久手市西浦1216 シンフォニア楽器 小牧店 …… 小牧市若草町219	052-733-8822 052-201-5153 052-331-3383 052-681-0251 0569-24-0675 052-722-1682 0561-63-7655 0568-73-0587
岩手県 (有)伊藤楽器店 …… 盛岡市中央通1-11-12	019-624-3854	滋賀県 (有)ウインドミュージック …… 草津市若竹町8-8 (株)JEUZIA 草津アスクエア店 …… 草津市西流川11-23-23A-SQUARE内 SARA 2F サンクス楽器 …… 甲賀市水口町日電1-15 (株)塚本楽器 …… 近江八幡市堀上町145-6	077-567-6333 077-561-6570 0748-63-1466 0748-33-5198
山形県 (株)島山楽器 …… 酒田市栄町13-12 (株)富岡本店 …… 山形市七日町2-1-8	0234-22-8833 023-641-0644	京都府 (株)JEUZIA 三条本店 APEX …… 京都市中京区石橋町三条通寺町東入11 ユリ楽器(株) …… 京都市上京区丸太町通千本東入中務町491-69 (株)三字屋楽器店 …… 福知山市内記新町51	075-254-3750 075-822-1818 0773-22-2215
宮城県 (株)三立 仙台本店 …… 仙台市青葉区一番町1-12-23 (株)ヤマハミュージックリテイリング 仙台店 …… 仙台市青葉区一番町2-6-5 (株)山野楽器 仙台店 …… 仙台市青葉区中央2-4-2 2F	022-265-6211 022-227-8517 022-797-1028	大阪府 村松楽器販売(株)大阪店 …… 大阪市淀川区西宮原2-1-3 SORA 新大阪21 2F 三木楽器(株)心斎橋店 …… 大阪市中央区心斎橋筋1-9-4 (株)国際楽器店 …… 大阪市中央区心斎橋筋1-5-28 (株)ヤマハミュージックリテイリング 大阪なんば店 …… 大阪市西区南堀江1-2-13 (株)コダマ楽器 …… 大阪市城東区鴨野西2-16-8 大東楽器(株)寝屋川店 …… 寝屋川市八坂町16-4 島村楽器(株) グランフロント大阪店 …………… 大阪府北区大深町3-1 グランフロント大阪北館5F	06-6394-6000 06-6251-4596 06-6252-0222 06-6531-8204 06-6967-5511 072-839-1990 06-6359-2855
秋田県 (株)ヤマハミュージックリテイリング 秋田店 …… 秋田市中通4-1-5	018-835-5091	兵庫県 (株)森岡楽器 …… 西宮市池開町1-35 (有)近藤楽器 …… 神戸市中央区布引町2-1-12 コタニビル201 (株)ヤマハミュージックリテイリング 神戸店 …… 神戸市中央区元町通2-7-3	0798-47-7372 078-230-6070 078-391-7653
福島県 (株)キョウ楽器店 …… いわき市平字2-21 (株)ウインズ・ユーいわき店 …… いわき市平1-1 ワシントンホテル1F	0246-25-7171 0246-25-5114	奈良県 島村楽器(株)奈良店 …… 奈良市二条大路南1-3-1 イトーヨーカドー奈良店4F	0742-30-2520
茨城県 (株)永江楽器 水戸 …… 水戸市桜川1-5-15 (株)かわまた楽器店 …… 水戸市泉町2-3-4 (株)ウインズ・ユーつくば店 …… つくば市稲岡66-1 イオンモールつくば1F (株)ヤマハミュージックリテイリング ミュージックスクエアつくば …………… つくば市研究学園5-19 イースつくば3F	029-226-6540 029-226-0351 029-896-6110 029-868-7180	鳥取県 (有)らばん …… 米子市道笑町1-3 BMEビル2F (有)はとや楽器 …… 倉吉市上井町2-4-8	0859-34-5767 0858-24-6612
栃木県 (株)上野楽器 …… 宇都宮市江野町4-6	028-633-4286	島根県 (有)タカキ楽器店 …… 松江市寺町199-1 (株)アツタ …… 出雲市渡橋町1210	0852-21-4509 0853-22-7322
群馬県 (株)煥乎堂 …… 前橋市本町1-2-13 (株)雪草楽器 …… 高崎市江木町1727	027-235-8116 027-325-6860	岡山県 (有)長谷川楽器店 …… 岡山市北区表町3-3-20 (株)ヤマハミュージックリテイリング 岡山店 …………… 岡山市北区表町1-5-1 岡山シンフォニービル2F ミュージックハウス ワタセ …… 岡山市北区津島本町4-30	086-225-2858 086-224-5333 086-255-5611
埼玉県 (株)下倉楽器 大宮店 …… さいたま市大宮区大門町2-92	048-643-6500	広島県 (株)広島アーツ楽器 …… 広島市中区八丁堀9-6 ミナキビル (株)ヤマハミュージックリテイリング 広島店 …… 広島市中区紙屋町1-1-18 (有)ウインドブルー …… 三原市円一町4-1-35 スガナミ楽器(株) …… 福山市東桜町7-1	082-227-6601 082-244-3780 0848-81-2111 084-923-6150
千葉県 (株)伊藤楽器 マイスター船橋店 …… 船橋市本町1-9-9 ルナパーク船橋1F (株)伊藤楽器 ららぽーと店 …… 船橋市浜町2-1-1 ららぽーとTOKYO BAY南館3F (株)伊藤楽器 松戸店 …… 松戸市松戸1174-1 島村楽器(株) ビビット南船橋店 …… 船橋市浜町2-2-7 ビビット南船橋4F	047-495-3000 047-435-1074 047-368-1161 047-495-4010	山口県 (株)下関十字堂楽器店 …… 下関市赤間町3-31 (株)POPS-K 周南店ピアノ館 …… 周南市緑町1-18	083-223-2311 083-431-0012
東京都 村松楽器販売(株)新宿店 …… 新宿区西新宿8-11-1 (株)山野楽器 本店 …… 中央区銀座4-5-6 (株)山野楽器ウインドクルー …… 新宿区百人町1-11-22 リサビル2・3F (株)下倉楽器 …… 千代田区神田駿河台2-2 (株)下倉楽器 八王子店 …… 八王子市明神町4-7-3 (有)フルート専門店 テオバルト …… 新宿区下落合3-16-18 (株)ダク …… 新宿区百人町2-8-9 (株)ヤマハミュージックリテイリング 銀座店 …… 中央区銀座7-9-14 (株)ヤマハミュージックリテイリング 池袋店 …………… 豊島区南池袋1-25-11 第15野萩ビル (株)永江楽器 …… 杉並区高円寺南3-37-13 スガナミ楽器(株) …… 町田市中町1-16-2 (株)宮地楽器 トップウインズ …… 小金井市本町5-14-10	03-3367-6000 03-5250-1062 03-3366-1106 03-3293-7706 0426-46-7706 03-5983-0711 03-3361-2211 03-3572-3134 03-3988-2911 03-3312-7591 042-726-0311 042-387-1231	徳島県 (株)黒崎楽器 …… 徳島市通町1-18 フルートの店 やまさん …… 名西郡石井町石井字内容261	088-653-6615 088-642-1637
神奈川県 (株)セントラル楽器 …… 横浜市神奈川区西神奈川1-15-2 (株)ヤマハミュージックリテイリング 横浜店 …… 横浜市西区南幸2-5-9 島村楽器(株)川崎ルフロンド店 …… 川崎市川崎区日進町1-11 川崎ルフロンド7F 島村楽器(株) 横浜みなとみらい店 …………… 横浜西区みなとみらい3-5-1 MARK IS みなとみらい3F	045-324-3111 045-311-1201 044-221-5261 045-222-8685	香川県 (有)竹内楽器 …… 高松市観光通1-2-16 (株)ヤマハミュージックリテイリング 高松店 …… 高松市丸亀町9-3 (株)楽器堂オーバースイオン高松店 …… 高松市香西本町1-1 イオン高松S.C.1F	087-862-5009 087-822-2678 087-832-8016
新潟県 (株)ヤマハミュージックリテイリング 新潟店 …… 新潟市中央区東万代町1-30	025-243-4312	愛媛県 一色楽器(株) …… 松山市千舟町5-3-5 (株)ヤマハミュージックリテイリング 松山店 …… 松山市千舟町4-3-7	089-941-8034 089-934-7006
富山県 (株)開進堂楽器 楽器センター高岡 …… 高岡市下伏間江383 イオンモール高岡2F (有)ウインズラボ …… 高岡市駅南3-1-3 広島ビル1F	0766-21-1029 0766-25-9323	高知県 (有)高知楽器 …… 高知市本町2-2-3 (株)楽器堂 オーバス本店 …… 高知市相模町17-21	088-822-8422 088-824-1853
石川県 (株)開進堂楽器 楽器センター金沢 …… 金沢市駅西本町6-3-21	076-221-1544	福岡県 クレモナ楽器 …… 福岡市中央区大名2-10-24 (株)ヤマハミュージックリテイリング 小倉店 …… 北九州市小倉北区魚町1-1-1 島村楽器(株) 福岡クラシック店 …… 福岡市中央区天神1-7-11 福岡イムズ5F	092-713-5303 093-531-4333 092-736-5610
福井県 (株)松木屋 ミュージックファクトリー …… 福井市日之出5-16-21	0776-52-0711	長崎県 (有)アルス楽器 佐世保店 …… 佐世保市折橋町168番地 (有)アルス楽器 長崎店 …… 長崎市勝山町15-2 (有)原田楽器店 …… 諫早市本町4-2	0956-23-5262 095-820-5345 0957-23-3337
長野県 (株)美鈴楽器 本店 …… 長野市北石堂町1403-1 北条楽器 …… 岡谷市東銀座1-6-1	026-226-7633 0266-22-5924	熊本県 (株)大谷楽器 …… 熊本市中央区上通町7-1	096-355-2248
山梨県 内藤楽器(株)本店 …… 甲府市丸の内1-17-7 2F	0552-35-7110	宮崎県 (有)音楽工房トニカ …… 宮崎市神宮1-12 サンハイツ神宮101	0985-29-9178
静岡県 すみやグッディ(株)本店 …… 静岡市葵区呉服町1-3-14 すみやグッディ(株)SBS通り店 …… 静岡市駿河区中田本町56-5 すみやグッディ(株)富士店 …… 富士市瓜島町79 すみやグッディ(株)沼津店 …… 沼津市緑ヶ丘2-5 (株)ヤマハミュージックリテイリング 浜松店 …… 浜松市鍛冶町321-6 島村楽器(株) ららぽーと磐田店 …… 磐田市高見丘1200番地 ららぽーと磐田店1F	054-253-6222 054-282-3911 054-55-3673 055-926-1171 053-454-4077 0538-59-0390	鹿児島県 (株)十字屋CROSS …… 鹿児島市中町2-14 沖縄県 (株)普久原楽器 …… 沖縄市胡屋1-3-4	099-239-9921 098-938-9375



MURAMATSU通信 SPECIAL 通巻 Vol.8

発行日 — 2016年5月25日
発行所 — 村松楽器販売株式会社
東京都新宿区西新宿8-11-1 〒160-0023

協力 — 株式会社 村松フルート製作所
編集協力 — 有限会社 ラグタイム

●お問い合わせ 村松楽器販売株式会社 営業部 (03-3367-6000)
●http://www.muramatsufute.com

デザイン: 太田事務所 / 商品写真撮影: 細川 晃 / 表紙及び1P写真: 堀 衛